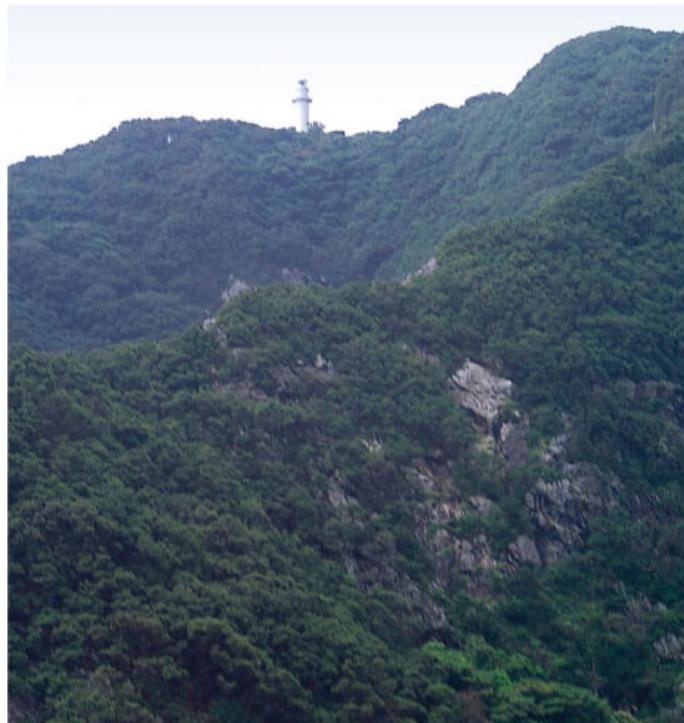


鶴見半島及び大島地域の 自然を考える

昆虫、鳥類、ほ乳類などの動物や草花、樹木などの植物は、その地域の気候、水質、地形・地質と深くかかわりあいをもち、地域ごとに独特の特徴を持っています。今回調査を行った鶴見半島及び大島地域は、多彩な海食地形と暖地性の気候により、特色ある動植物が生息・生育しています。

鶴見半島と大島地域の海食地形は典型的な地形景観を備えており、見事な海岸美を見せてくれます。これは日豊海岸国定公園の傑出した自然景観として、決して人手を加えることなく、優れた景観を保全することが肝要です。

海食崖が多いため、表土の薄い急斜面や稜線にはウバメガシ林が発達しています。植生の維持は保水のみならず、地域の産業を支える漁場の保全につながる魚付林としての役割も大きくなっています。



鶴御崎灯台



貝掘りを楽しむ人々（鶴見町島江）

釣り客や観光客が増加することによる海岸環境への影響が懸念されます。釣り客が放置するテグスや釣針、エサ、ごみなどが海岸部を生息場所とする海鳥たちに悪影響を与えているケースが多く生じています。釣り客などのマナーアップが求められています。

細長い半島や点在する離島が多いため、渡り鳥のコースにあたり、春や秋の渡りの時期には、渡り途中の鳥たちが森林で休息したり、エサを補給したりする姿が見られます。



鶴見半島で釣りをする人々



間越の砂浜海岸

このように鶴見半島と大島地域は、気候、水質、地形・地質、動植物などの自然を形成する要素とそこを利用する人の活動が互いに影響し合い、特徴のある自然となっています。自然を配慮しない植物の採取、ごみのポイ捨てなど、誤った行動や利用が増えれば、これらの自然はたちまち壊れてしまいます。地域の人々や、そこを訪れる人は、優れた自然を保全するような利用方法を考える必要があります。正しい利用方法を一人一人が考え、行動に移していきましょう。